

メディアビジネス部門と環境企画

メディアビジネス部門では、環境に関する社会変化や企業の取り組みを訴えていく環境コミュニケーションに力を入れています。編集特集や広告特集にイベントやデジタル展開などを加えた大型企画や、読者にとって身近なものをテーマにした事例など、様々な取り組みをしています。

◆「大学 SDGs ACTION! AWARDS 2022」



2030年の達成を目指している世界共通の目標、SDGs。この実現に向けて活動している大学生や若手研究者らを応援するのが「大学 SDGs ACTION! AWARDS」です。賛同する企業や団体、自治体の協力を得て18年に創設した朝日新聞社主催のプロジェクトは5年目の開催となりました。今回は75件のエントリーから一次選考を経た12(個人・団体)のファイナリストが最終選考会に進みました。

最終選考会は22年3月3日に有楽町朝日ホールにて開催。コロナ禍により、ファイナリストはオンライン参加、有識者等の選考委員は会場に集合、ハイブリット形式での実施となりました。

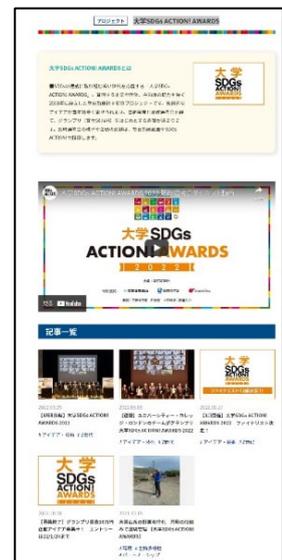
エントリーの内容は、SDGsの17分野の目標に示されるように、実にさまざまです。例えば、保健医療のための世界的な医学生のネットワークづくり、朝食をとれない子どもに地域と連携して支援するアイデア、視覚障害者のためのナビゲーション技術を搭載した白杖の提供、など。なかでも、産廃素材のアップサイクルにより環境問題や地域産業に配慮した商品創出や、放置竹林や畑の有効活用、規格外農産物を活用した循環型社会の訴求など、「環境」分野の課題解決を目指したアイデアが数多く提案されていて、若者たちの地球環境への関心の高さが伺えます。



協賛企業も、SDGs達成に向けて真摯に取り組む学生を支援したいという要望が強く、この最終選考会のセッションやワークショップのプログラムを通して、学生と直接のコミュニケーションを図るべく、広報や宣伝、事業開発の部署の

方や役員など多くの方が参加する場となっています。

最終選考会では、グランプリ(賞金50万円)、準グランプリ<協賛企業冠賞>(30万円)、スタディツアー賞<自治体>、オーディエンス賞などが発表になります。受賞学生は、「自分たちの活動に興味を持って下さる方が多く、自信を持つことができた。参加して良かったなと心から思った。」「これからも企業とアイデアを出しあったり連携の方法を模索した



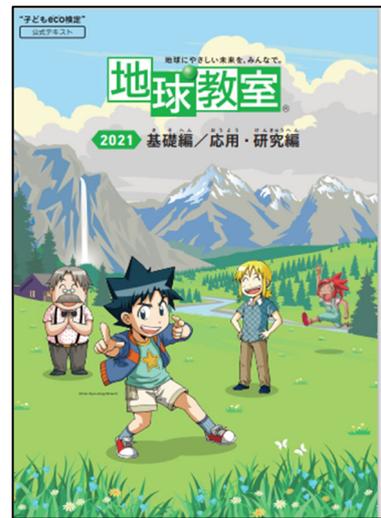
りするミーティングの機会がほしい。」「ファイナリストのその後の活動を学生同士でも共有したい。」などの感想が寄せられました。

若者の活動やアイデア創出を支援し、今後はさらに、世の中に実装していくためのサポートを協賛企業とともに検討していきたいと構想しています。(特別協賛:住友金属鉱山株式会社、日本ガイシ株式会社、出光興産株式会社、後援:文部科学省、外務省、日本経済団体連合会)

◆「環境教育プロジェクト「地球教室2021」

「地球教室」は、新聞社が持つ情報やアセットを、環境教育の現場で活用することをねらいに2008年にスタートしました。プロジェクトは以下の4つのプログラムを展開しています。①当社作成の環境学習テキストの無料配布、②児童制作の「かんきょう新聞」募集、③環境学習イベント「かんきょう1日学校」、④「出張授業」。学校や家庭に自社の環境への取り組みを訴求したい企業と、環境教材や多様な学びの機会をを求める学校を結び、環境教育の場を創出しています。

テキストは希望する小学校・団体に約26万冊を配布、累計配布数は約304万冊になります。テキストは環境を学ぶ上で必要な基礎知識を体系的に解説した「基礎編」と、協賛企業などの環境技術や取り組みをまとめた「応用・研究編」で構成、内容は毎年改編し、一部を朝日新聞記者が執筆したり、最新の新聞記事を引用したりするなど、地球環境の今がスムーズにわかるようになっています。また、自分で考えたり、調べたりして記入する項目を設けて自発的な学習を促すほか、人気の「科学漫画サバイバル」シリーズ(朝日新聞出版)とコラボレーションし、楽しく学べるように工夫をしています。テキストで学んだこと、考えたことや調べたことをもとに児童が新聞制作をする参加型プログラム「かんきょう新聞」には、1万を超える作品が寄せられました。



小学生を対象としたイベント「かんきょう1日学校」は、環境問題取材する朝日新聞記者や協賛社の社員が「先生」となって、様々な視点から環境の授業を展開します。オンラインで開催し(9月)、全国から700名を超える児童が参加しました。リアルイベントでは参加が難しい遠隔地からの参加者も多く、オンラインでの質問やチャットなどリモートならではの

インタラクションを生かした熱気あるイベントとなりました。同じく、記者や協賛社の社員が「先生」となって小学校を訪れる「出張授業」には約400校の応募があり、全国8つの小学校で授業を実

施しました(オンライン授業含む)。環境授業を児童と対面で提供し、児童や学校関係者から好評をいただきました。

公式サイトでは、年間予定や活動案内のほか、「かんきょう新聞」優秀作品や利用者の声を紹介。教員向けのテキスト解説書「ティーチャーズ・ガイド」もダウンロードが可能です。さらに現在、「かんきょう新聞」制作の手引き動画公開も検討中です。

今後も、新聞社ならではの環境教育プログラムの開発と改善を通して、学校と企業のそれぞれのニーズに応えていくよう、引き続きプロジェクトの活性化を図っていきます。(特別協賛:旭化成株式会社、株式会社ロッテ、ナブテスコ株式会社、株式会社UACJ、後援:文部科学省、環境省、全国連合小学校長会、全国小学校理科学研究協議会、朝日学生新聞社)

